

全国保健所長会60周年記念シンポジウム
「地域保健法施行10年の軌跡と
これからの展望」
公衆衛生の立場から

櫃本 真幸
(愛媛大学病院医療福祉支援センター)

その原点に返り未来を展望する

今回の公衆衛生学会のテーマ

- なぜ原点に戻らなければならないのか？
目標と手段の混同からの脱却
- 本来の公衆衛生の目的は？
「真の住民のニーズを実現すること」
住民・地域資源の全ては そのパートナー
「コラボレーション」・「エンパワメント」の姿勢
- 医療制度改革 この危機はチャンスになる

地域保健法の検証

- 1) 「地域保健」と「公衆衛生」の理念が一致しているか？
- 2) 市町村は本当に自立しているか？
- 3) 保健所と市町村と連携・協働の充実は図れたか？

地域保健法が本当に公衆衛生(地域保健)を向上させる原動力となったのか？

法の内容というより「**運用**」という観点での問題
地域保健法の見直しの前に検証が必要である。

「公衆衛生」の大いなる過ち

地域保健法の運用に影響を与えたと考えられる「過ち」の背景

- 1) 公衆衛生マインド ヘルスプロモーション理念の軽視・不在
- 2) 公衆衛生 = 「予防」とした予防活動へ偏り
医療・福祉分野への関わりの軽視
- 3) 公衆衛生を専門 もしくは理解しない厚生関連行政者
- 4) 住民不在の施策 行政・専門家からの押し付け的施策
- 5) 郵政民営化に連動した 保健・医療・福祉分野への民営化
- 6) 医療費抑制を最大の焦点にした中央・経済主導施策の断行
- 7) 健康日本21運動のトーンダウン
ハイリスク対策の強化とアウトソーシングの促進
- 8) 共助の軽視 公助の肥大化と共助の弱体化
公助の縮小化と自助への責任転嫁

保健所の役割が期待されるチャンス到来

今こそ地域保健法の運用を修復するチャンス

- 1) 中央主導から地方分権化へ 政権奪回の契機
- 2) 地方の判断力が求められる
地方自治体の行政技術職・専門職のチャンス
- 3) 医療がこの制度改革でSOSを出している
福祉分野も混沌としている
- 4) 医療難民・介護難民が地域にあふれ出す
地域における医療や福祉資源のマネージング
住民の地域公衆衛生施策への期待増
- 6) 地域保健法運用のデメリットの希薄化

これまでを検証し今後を展望する 「キーワード」

10年前を振り返って 温故知新 変わらぬものの重視

- 1) ヘルスポモーション理念から 地域保健法の見直し
- 2) 公衆衛生の過ちの自らの検証
- 3) 公衆衛生のEBMの確認
地域の資源をいかに共通のFORに向けるか
- 4) 地方分権化 保健所の位置づけ 地域の判断力を磨く
- 5) みんな手段で悩んでいる 住民ニーズを目標においた
PDCAサイクルの重視
- 6) パラダイムシフトのチャンス
タレント から マネージャーへ
エンパワメント マネジメント コラボレーションの充実
ハイリスク・ポピュレーションアプローチの融合

ブレないこと！ 公衆衛生の正道を邁進する